３月２２日（水）に行われました、藤木大地さんと大和高田市長の対談の様子をご紹介いたします！
とても和やか雰囲気のなか、５月 21 日開催の『藤木大地＆みなとみらいクインテット』公演や、文化行政についてお話しいただいた様子を詳しくお伝えします！！！

（ホールスタッフ）まずは、藤木さんから今回のプロジェクトの内容とさざんかホールでのコンサートの見どころなどについてお話しいただけますでしょうか。

——藤木——　はい、僕が現在プロデューサーを務める横浜みなとみらいホールで作ったコンサートを、全国各地に同じコンテンツを発信して、各地のホールとのつながりを作り、そして強めることが第一の目的になります。コンサートの内容としては、今、私は地声でしゃべっていますが、裏声で歌うんです。そんな歌手がピアノ五重奏のメンバーと一緒に行う室内楽という分野のコンサートで、歌を中心に聞いていただくことになります。

今回のコンサートを実施するホールは、昨年の１０月に横浜の杉田劇場横と県立音楽堂、１２月に福岡アクロス、横浜みなとみらいホールで2月に、その後同じく2月に広島県三原市のポポロで行い、５月３日に新潟市のりゅーとぴあ、５月２１日が大和高田で、８月６日に横須賀芸術劇場で開催します。

横浜みなとみらいホールの担当者が各地のホールとの関係を結ぶことで、今後のプロジェクトの展開や、ホール同士のつながりが強くなり、お客さんによりよいものを聞いていただくことが出来ることを目標としています。私からも今回のプロジェクトを大和高田市が受け入れてくださったことに感謝しています。ありがとうございます。

——市長——　光栄すぎて何をお話すればよいのかと思うのですが…、私は横浜みなとみらいホールには行ったことがないんですが、プロジェクトの参加ホールも名だたる大きいホールばかりで、本当にさざんかホールが仲間に入って恥ずかしくないのかなと心配するほどです。どうしてさざんかホールをお誘いくださったのか疑問なんですが、なんででしょうか…

——藤木—— 2021 年の 1 月に宝くじが主催のコンサートがありまして、僕が宝くじから派遣されて大和高田と宇陀市で公演を行ったのがまだ 1 年と 2 か月前ですね。その時の大和高田のお客様も温かだったし、かつホールの方々もフレンドリーで、今後も何か一緒にしたいですねって言ったんですよ。

全国の公共ホールっていうのは自治体のホールですから、全国で見ると担当の方が音楽に興味がないということもあるんですよね。そんな中でスタッフの方々に熱意があって、ホール全体が音楽会や催しをお客さんに楽しんでいただこうという思いが伝わってくるところと僕もやりたいし、横浜のポストもあったので、こういうこと一緒にやりませんかということでお声がけさせて頂いたら、実現してくださるということになったという経緯です。

——市長—— 高田はコーラスが盛んですし、市民のみなさんは（こんなすごいメンバーが来られることを）喜ばれると思います。ほんとに光栄です、ありがとうございます。地方の田舎のホールに、こんなメンバーが揃って来ていただくなんて、なかなか難しいことだと思うんですが、藤木さんから呼んでいただいたということなんですね・・・

——藤木—— 「はい」とは言うものの、大和高田さざんかホールの事業のラインナップを拝見すると、ものすごくいい質のものをやってることが分かるんです。これは全国的にみても素晴らしいクオリティのものを市民のみなさんに還元されているという印象が強くて、質のいいホールと捉えてます。僕は宮崎県の出身なので、地方のホールというものを見て育ったし、そこで育てられた音楽家なので、ここで生まれて、音楽家にならなくても音楽を知って、大人になって違う仕事をするような人達のためにも、小さいころに音楽に触れるっていうのはすごく大事だと思うんですよね。

話しを戻しますと、一緒に来てくれる 5 人はクラシックを知ってる人なら、だれでもご存知のアーティストで、本来なら一人でコンサートが成り立つし、普段はソリストとして活躍している人達なんですが、そういう人達を 5 人集めることで、コンサートの価値をより高めたいし、お客さんへの還元度を高めたいという思いなんです。そういう人達が揃って、大きなモチベーションをもって奏でる音楽がどういうものか、「本気の…」って言ったらあれですが、すごく密度の高い、高次元のものを聴いていただけると思います。

——市長—— そんな凄い方々のコンサートのプロジェクトに誘っていただけたのは、さざんかホールのスタッフの熱意が伝わったからなんですね。

——ホールスタッフ—— それだけでなく、前回の宝くじ公演の際に、藤木さんがご自身の SNS で、さざんかホールのことを 26 年経っているけれど、大切に使われてきたのが分かるホールと紹介してくださったことも、とても嬉しかったんです。

――藤木――　あぁそれは、全国の色んなホールに行くじゃないですか、公共ホールって大体同じ時期に建ってるので、今、大体20年～30 年くらい経ってるホールが多くて、その中で楽屋の今の状態とか、おトイレとか、舞台袖の状態でホールがどれだけケアされてきたかが分かるんですよね。あまり使われてなくて回ってもないところはボロいし、その中でさざんかホールは丁寧にケアされながら、ホールが育てられてきたことを感じたわけです。

――市長――
そう言っていただけると、ホールのスタッフも喜ぶと思います。

――藤木――
市長も喜んでくださいよ。

――市長――
もちろん嬉しいです。5/21 も楽しみにしています。
あと市内にはコーラス団体もたくさあって、年配の方も活発に活動されています。そういうのに参加されてる方はみんな元気な方が多いなという印象なんですが、藤木さんがあちこち行っておられて、この街、元気だなと思うとこありますか？

――藤木――　あえて都市部と地方という言い方をすると、すごくのどかに暮らしている環境のところは、自分の生まれ育った街も含めて元気ですね。それに「歌」っていうのは健康になるんです。体を使って大きい声を出すっていうことは、呼吸が循環するんですよね。市長はカラオケに行かれないと言われてましたが、一人でもカラオケに行っていただいて、大きい声を出すと体が開いて、空気が身体の中を循環するのはいいですし、姿勢が正しくなるし。ホームページにも書かれてましたが、コーラスの街、大和高田ですよね。そういう方がいっぱいいらっしゃる街は元気だと思いますね。

――市長――　そうなんです。コーラスは盛んなので、市のスローガンにもハーモニーを表し、ロゴにも五線譜を用いてます。私は音痴なんですけどね、中学生のころは、吹奏楽部でトランペットを吹いてて、複式呼吸が必要って言われて、腹筋のトレーニングをさせられて、なんで腹筋が必要なんだ？って思ってました。そういえば、歌を歌う人はがっしりした大きい身体の人というイメージがありましたが、藤木さんはとてもスマートですよね。

――藤木――　大きい人もいます。よく「太ってないといい声が出ないんですか」って質問いただきますけど、脂肪で歌うわけじゃないので。歌うのは声帯なんですよね、なので技術としては声帯をどう使うかってことなので、体型はあまり関係ないと思っていて。そういうイメージは往年のイタリアのオペラ歌手の体格が良かったからついたイメージだと思います。僕は今日、市長にお会いするためにダイエットしてきたので（笑）

――市長――　5/21 のコンサートのプログラムも見ながらとても楽しみだなと思ってます。普段、CDで魔笛をよく聞いているんです。ソプラノの高い声が好きなんですよ。今回のプログラムも非常に面白そうだなと見てました。

　それにしても、さきほどからのお話で、名だたるホールさんとのネットワークプロジェクトに参加させていただけたのは大変光栄なんですけども、今後の文化施設の課題点とかアドバイスがあれば教えていただけないでしょうか。

――藤木――　僕も含めて文化に携わる人々が、その大切さを理解して、熱意をもってお客さんに届けようとする心だと思うんですよね。気持ちがないと仕事は楽しくないと思うし、仕事になっちゃうと楽しくないんですけどね。将来、地域を良くするには何が必要かと考え、今、こども達に芸術に触れてもらいたいと思うのであれば、自ずとそういう機会をたくさん作るでしょうし。なので今度の 5 月の公演では、2 階はこどもを招待しようかという話を先ほどしていて、こどもって大人がチケットを買ってあげないと来られない存在ですから、その入り口を広げてあげることで、音楽が好きになって、劇場に通うことが好きになって、今後のオーディエンスになる可能性があるんですよね。もちろん情操教育としても、知識や経験が豊かになるという意味でも、若い人に聴いてもらわないと、観客も高齢者しかいなくなって、会場に来る人がいなくなってしまうんですよね。日本はどこでも、世界的にも。それを防ぐためにも、オーディエンスを開拓して育てていかないといけないと思うんです。

――市長――　CD などで聞いているのと、実際に生で聴くのは天と地の差があると思うんですよ、だからできるだけ足を運んで生の音というものに触れていただきたいですよね。

　さて、藤木さんも横浜みなとみらいホールでプロデューサーとしての仕事をされたり、今までにしたことがないことをされているのだと思いますが、何か新しいことにチャレンジされる時の心構えみたいなものはありますか？

――藤木――　そうですね、カウンターテナーになるってこと自体が新しいことでしたね。自分の話をすると、30歳まではテノールで、地声で歌ってて、留学してる時に裏声を見つけて、それで道のないところに道を作っていかないといけない時期があって。その時考えたのはマーケティングというか、市場はどうなっているのか、お客さんが何を求めてるかを考える。現状とこの先に何をしたいかという、先にミッションを作って、そのゴールがあるとして、その前に、順番に何をしないといけないかということを考えることだと思うんです。僕の場合は、まず人に知られるために色んなコンクールに顔を出して結果を出して、そこから徐々に人を巻き込んで演奏の機会を増やしていき、ようやく13年経って本当にやりたいことをやらせてもらえるようになってきた感じです。新しいことをするって楽しいことじゃないですか。だから僕は誰もやってないこと、自分にしか出来ないことを探すことを心がけています。街だって大和高田にしかできないことを考えて、音楽の街、ハーモニーの街ですから、特色として大和高田といえばコーラスだ！とか、劇場だ！とか、そのために何をするかってことだと思います。

　あっ、思い出したんですけど僕、大和高田市にふるさと納税したんですよ。公演で行くあちこちのところで思い入れがあって、納税して返礼品をいただいて、また思い出すことで、あの会場にまた行きたいなと思う訳で…。

――市長――　そうなんですか。どうもありがとうございます。　お話を伺って、新しいことにチャレンジされる時に、ニーズを考えながらプロセスを立てておられるのが、すごく分かりました。街づくりも市民のニーズに合わせて計画を立てることが大切です。今は、ちょうどこれから桜が咲くところですが、高田と言えば千本桜と言われていますが、これからは高田と言えば藤木大地と言われるように…

――職員一同――　おぉーー（賛同）

――藤木――　ありがとうございます。名前（大造と大地）も似てますしね（笑）

――市長――　本当に今回の公演を楽しみにしてます。今日はありがとうございました。

――藤木――
ありがとうございます。さっき話題になった魔笛の CD のソプラノ歌手は、多分僕の友達なので、さざんかホールでもいつか一緒にコンサートをしましょうかね。

――市長――
えっ、ほんまですかめっちゃうれしいです。

――藤木――　きっかけが大事なんですよ、こういうの。楽しみにしてください。

（ホールスタッフ）本日はありがとうございました。たくさんお話いただき感謝いたします。今日、お聞きしたことを心に留めこれからのホールの事業に活かして参ります。